

### 環境農業新聞購読方法

年3,000円  
毎月15日発行  
FAX、メールでお申し込み下さい。  
郵便振替口座 00150-2-290578

# 環境農業新聞

メール:ecoagri-na@sweet.ocn.ne.jp

## NEXT AGRI PROJECT 20

明日の日本農業を語る活性化会議



マイナビ農業主催のイベントで講演する由井代表

## 自然農からの新産業創出

### 土と腸は同じという視点で

### 定員オーバーで盛況に

9月11日、品川インターシティホールにてマイナビ農業主催イベント「NEXT AGRI PROJECT2019東京」で、日本豊受自然農(本社・静岡県函南町)の由井寅子代表が「むかしながら」が現代の最先端!自然農からの新産業創出をテーマに発表した。定員100名の会場は、立ち見が出るほどの盛況となった。

講演では「土と腸は同じ」という視点から微生物や腐葉土によって発酵される畑の「土」と腸内細菌による発酵器としての人体の「腸」と腸内細菌の関係を対比し、発酵・化学肥料や農薬によって土壌菌が失われ「腐敗し

た土」になるように、抗農の函南農場では土壌の有益菌を増やし自然な環境を取り戻すために何百種類もの日本古来の土壌菌「豊受御古菌」を培養

する事業もスタート。またくぬぎの落ち葉堆肥をベースに、ハーブや農作物の残渣、乳酸菌、麹菌などを使った堆肥作りをしている様子も映像で紹介された。昔ながらの知恵を生かし、自然型農業からの六次産業化で加工食品、化粧品に加え、ハ

ープの草木染めの衣料品の新規事業など、様々な新商品、産業創出の可能性を語り、大変、意欲的な講演となった。

また、先日の台風15号の強風にも、直撃でも、これらの豊受御古菌や堆肥を入れた水田の稲は、周りの田んぼの稲が全て

倒れていたにも関わらず、しっかりと根を張り、倒れずにすくすくと立って育っている映像には歓声が沸き上がった。



定員100名で立見が出るほどの講演に



マイナビ農業のイベントに出展



農産物から作った化粧品

そして、安全な農業がどうして大事なのか、母性がどうして大事なのか、食と母性の話にも皆さん熱心に聞き入っていました。日本人が古来から伝承してきた神仏、大自然への信仰心や感謝の心を取り戻すことがとても重要であること、「作物も人も元気に育つ秘訣は、土や作物や人への愛と感謝に尽きます。その安心感

### ニセコフードコミッション企業組合

## 池袋のバザールに出展、注目浴びる

## 発芽玄米麺に興味

### 7日に由井代表と面会

9月4日から3日間、東京・池袋のサンシャインフォレストパザール2019に北海道ニセコ町のニセコフードコミッション企業組合(齋藤行哉理事長・北海道虻田郡ニセコ町字中央通1-13番地、TEL:0136(44)1400)が出展し、独自で開発した

米粉を使った商品を示、多くの来場者から注目を浴びた。米粉で無添加食パン(齋藤理事長は「無添加食パン 米麺/蕎麦(発芽玄米麺)・うどん・パスタなど皆さんの関心を頂きました」と語る。また、齋藤理事長は、



バザールに出展、多くの人々が来場



由井代表と面会した齋藤理事長

また、7日には世田谷・用賀の日本豊受自然農が経営する「オーガニックレストラン」を訪問し、同直売所を視察した後、由井寅子代表に会って、開発した商品を説明した。由井代表から「同じポリシーでやっていらしゃいますね。素晴らしい

安店でも現在お求めいただけます。・順次米生パスタ・米食パン(フレイン&発芽玄米パン)も

準備中です、と語っていました。ニセコフードコミッション企業組合は、ニセコ町及びニセコエリア(噴火湾・洞爺・有珠から羊蹄・ニセコ連山・積丹半島)において生産される

「有島米・米粉」をはじめとする農作物・水産物及びその二次加工品の販売を行い、この事業活動を通じて特に消費者(地)と連携(CAS運動)し、「作る人」と「食べる人」の繋りの根底に

ある「安心安全」の絆を結ぶ事を到達点として取り組み、未来に生きる子供たちが胸を張って引き継ぐ事が出来る新たな地域スタイルをニセコエリアから形成する事を目的としている。

### 相互販売を約束

「お互い商品を販売していきましょう」と相互販売の約束をしていた。齋藤理事長は「前から会いたいと思っていたので嬉しかった。ニセコに戻ってすぐ日本豊受自然農洞爺農場を見学に行ってきた。素晴らしい口ケーション。駒ヶ岳も見える場所最高。米丸さんに会って色々情報交換をしてみました。このロケーションを生かしたことをやれば面白い観光スポットになる。そこで採れた農産物、加工品、化粧品などを販売するということは注目浴びますよ」と感想を寄せた。